

第10回JTB交流文化賞 受賞作品が決定

交流による地域活性の
優れた取り組みを表彰

第10回を迎えた「JTB交流文化賞」の受賞作品が22日、JTBから発表された。関連記事も。地域に根ざした持続的な交流による地域活性化の優れた取り組みを表彰するこの賞。組織・団体からの応募作品の中から、小原ECOプロジェクトの「集落人口2人!! 限界集落の挑戦」が最優秀賞に輝いた。優秀賞にはNPO法人シクロツーリズムしまなみの「自転車旅行を支えるおもてなしのしくみ『サイクルオアシス』」と、七尾山の寺地域振興会の「七尾山の寺の日『等伯と山の寺千年史』」の2作品が選ばれている。3作品の取り組みの概要を受賞者の喜びの声と共に紹介しよう。



第10回授賞式の様子

賞の意義と目的

まずは、受賞された皆さまにお祝い申し上げます。

JTBグループは旅行業を通じて培ってきた「人と人を結びつける力」を活用して、あらゆる場所で交流を生み出し、地域や社会課題の解決にまでつなげていく「地域交流事業」を推進しています。2005年にこの理念のもとにJTB交流文化賞を創設し、今年で10周年を迎えることができました。交流文化賞の大きな特徴は、今後の発展が期待できる「持続可能な観光」を応援する賞だということです。

受賞した地域の取り組みに対しては、表彰だけでなく、地域での取り組みの商品化やプロモーションなどをJTBグループが全力でバックアップしていきます。受賞地域の「これから」に、ぜひご期待ください。



JTB社長 高橋広行氏

古民家修復し交流拠点に

福井県勝山市小原集落は、自然に囲まれた限界集落。林業や炭焼などが盛んに行われ、明治24(1891年)には350人が住んでいたが、周辺都市・住民が参加し取り組む中で、全国的モデルとなる。

集落人口2人!! 限界集落の挑戦

小原ECOプロジェクト

(福井県勝山市)

最優秀賞

の住民はたった2人。そのショックな状況にもめげず、古民家を修復した農家民宿を交流拠点に、地元

の福井工業大学、周辺住民らと観光振興に取り組んでいる。希少種ミチノクフクジュソウの保全・保護活動を通して、小学生などとの交流も実施。交流人口年間1200人以上を目標に、農村文化、動植物の生態系、地形などを資源とした多様なエコツアーを提供している。近い将来に住民が存在しなくても、交流を通じた活動で地域文化や自然環境を未来に残すことを目指す。

【講評】

たった2人の住民でもこれだけの



工業大学生と住民との交流

ミチノクフクジュソウ開花観察会



住職による「七尾山の寺」の説明



16寺院が連携し企画

七尾山の寺の日「等伯と山の寺千年史」

七尾山の寺地域振興会
(石川県七尾市)

優秀賞

七尾地域の16寺院が連携し、11月1日の「山の寺の日」に、七尾出身の絵師、長谷川等伯の関連作品や寺宝を一斉公開するイベントを開催している。仏教寺院が連携し、宗教を背景とした交流拠点として、文化的資源を発信していくこととするユニークな取り組み。七尾市の発展を目標としており、今後、能登半島の寺院では廃寺が進むとみられるなかで、16寺院の住職の

【講評】
「やる気」も高まっている。七尾は資源の集積。寺のオリジナリティあふれる復活に期待がもたれる。



七尾山の寺地域振興会会長 中浜耕平さん

寺が栄えて地域も栄える
【受賞の喜び】
寺が栄えて地域も栄える

寺が栄えて地域が栄える方程式の解を求めてきた。今回の受賞により寺院群の知名度が上がり、七尾市がさらに発展するのを期待している。
能登の良きところは、自然や歴史の道だと思えた。どこかの地域にも埋もれている魅力がある。その埋蔵金を掘り起こせば地域活性化の道が開ける。

受賞の喜び

地域交流の文化
創り上げた



小原ECOプロジェクト代表 國吉一貴さん

すぐ光栄だ。活動してきた9年で集落の人口が1人から現在1人にならなくなってしまった。この間に生まれた方から将来を託された。うれしさと共に、その方の顔が浮かぶ。地域交流の二つの文化を形作ることができた、と思っている。

商品企画力、販売力のあるJTBには、われわれの地域も含め過疎集落でのニューツーリズムのようなものを創り上げてほしい。

住民が休憩所を提供

【しまなみ海道】は本州と四国を結ぶ橋の中で唯一、自転車歩行者道が設置されている。この独自性を生かし、サイクル観光を推進している。地域住民が軒先を休憩所としてサイクルリストに提供する「サイクルオアシス」が始まり、現在は周辺含め95軒が参加。給水やトイレなどの提供のほか、交流が生まれ、まなみブランドの根幹に成長している。

【講評】
スポーツツーリズムへの期待が高まる中、タイムリー。行政主導の運動だけでなく、一般商を期待できる。

自転車旅行を支えるおもてなしのしくみ「サイクルオアシス」

NPO法人シクロツーリズムしまなみ
(愛媛県今治市)

優秀賞



シクロツーリズムしまなみ代表理事 山本優子さん

自転車旅の旅を四国全体に広げていくためのネットワークづくりを進めている。その中で、しまなみという四国の入り口で出来上がったのが、住民参画型の人と人の交流の仕組み。今回はそれを評価してもらった。自転車の旅はまだ新しい分野だ。JTBと一緒に新しいツーリズムを作っていきたい。

【受賞の喜び】
JTBと協力し自転車旅の促進を

10年記念誌を発行

地域活性の参考事例に



JTB交流文化賞の10周年記念冊子「持続的な交流を創造する地域を訪ねて」が1月下旬に発行された(Ａ4判、48頁、オールカラー、無料)。これまで受賞した34地域の、固有の魅力の創出・需要の創造、地域活性化、双方向の文化交流など、オリジナリティを生かした「持続可能な観光」の取り組みについて、受賞当時から現在に至るまでの変遷をルポ形式で紹介した。また、選考委員によるこれまでの受賞作品の振り返り、活性化に取り組む地域の方たちへのアドバイスなどについて語られた。第10回記念座談会も掲載している。購読希望者は交流文化賞の公式ホームページ(<http://www.jtb.co.jp/ichikasho/kankashisa>)の応募フォームから無料送付も行う。この。



JTBは、地域・文化・人との新しい出会い、「交流文化」を支援・推進します。

JTB交流文化賞

JTB交流文化賞は、地域に根ざした持続的な交流の創造と地域の活性化に寄与することを目的として、2005年に創設されました。以来、10年にわたり、地域・文化そして人との新しい出会いを応援すると共に、受賞地域を様々なかたちでバックアップしています。第10回「交流文化賞」では、多数のご応募をいただき、ありがとうございました。これからも本賞を通じて、様々な交流文化の広がりや地域の発展に寄与してまいります。

第11回「JTB交流文化賞」は、2015年初夏に募集開始予定です。皆様からのご応募を心よりお待ちしております。



お問い合わせ先

JTB交流文化賞事務局

(株式会社JTB総合研究所内)

tel.03(3525)4559(10:00~17:30 土・日・祝日休み)

fax.03(3525)4565

e-mail: jtb-kbunkasho@tourism.jp

JTB交流文化賞

検索